令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【木崎小学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における国語、算数の「知識・技能」において、全国平均及びさいたま市平均を上回る。	⇒	ドリルパーク、スタディサプリ等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における国語、算数の「思考・判断・表現」において、全国平均及びさいたま市平均を上回る。	⇒	学校課題研修を通して、言語活動の充実を図り、自分の考えを表現したり仲間との対話を通して考えを深めたりする機会を多く設ける。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	日常的な問題解決的な学習（課題設定、見通し、個別学習、協働学習、価値づけ、まとめ、振り返り）を行う。また、子ども一人ひとりに自分の学習状況を把握させ、自ら立てた学習計画に基づき学習を進める。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	全国学力・学習状況調査の国語、算数の「知識・技能」において、全国平均、さいたま市平均ともに上回った。全体的によく理解しているが、正三角形の意味や性質、百分率で表された割合についての理解に課題がみられた。数学的活動を重視していく。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査の国語、算数の「思考・判断・表現」において、全国平均、さいたま市平均ともに上回った。全体的によく理解しているが、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がみられた。他教科等と関連を図りながらして指導していく。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査における「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%を上回った。また、国語、算数とも無解答率が低く、粘り強く取り組んでいる。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

小3	さいたま市学習状況調査の国語において、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」共にさいたま市平均を上回った。算数において、「知識・技能」は平均と同程度、「思考・判断・表現」は平均を上回った。全体的によく理解できているが、算数の計算に課題がみられた。基本的な計算の反復・習熟に取り組んでいく。	小4	さいたま市学習状況調査の国語において、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」共にさいたま市平均を上回った。算数において、「知識・技能」は平均を上回り、「思考・判断・表現」は平均と同程度だった。全体的によく理解できているが、算数の図形、データの活用についての理解に課題がみられた。数学的活動を重視していく。
小5	さいたま市学習状況調査の算数において、「知識・技能」は平均を上回り、「思考・判断・表現」は平均と同程度だった。国語において、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」は平均と同程度だった。国語の言葉の特徴や使い方についての理解に課題がみられた。漢字や言葉の使い方の反復・習熟に取り組んでいく。	小6	さいたま市学習状況調査の国語において、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」共にさいたま市平均を上回った。算数において、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」共に平均と同程度だった。算数の図形の理解に課題がみられた。数学的活動を重視していく。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における国語、算数の「知識・技能」において、全国平均及びさいたま市平均を概ね上回った。ドリルパークやスタディサプリ等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に引き続き取り組んでいく。	B
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における国語、算数の「思考・判断・表現」において、全国平均及びさいたま市平均を概ね上回った。言語活動の充実を図り、自分の考えを表現したり仲間との対話を通して考えを深めたりする機会を引き続き設けていく。	B
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、どちらの調査も肯定的な回答の割合が90%を上回り、目標を達成することができた。	A

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（概ね達成）　C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。また、反復のみならず、概念の必要性や意味の理解を深めるために、自分の考えを表現したり仲間との対話を通して考えを深めたりする活動を重点的に取り組んでいく。
思考・判断・表現	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え自分の考えをもったり、根拠を明確にして自分の考えに説得力をもたせることに課題がみられた。仲間との対話を通してお互いの考えを聴き合ったり、自分なりの根拠をもって考えを伝えたりする活動を重点的に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	引き続き「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%を維持する。学習の目的や課題を明確にしたり、児童と共に学習計画をたてたりする活動を重視していく。